

4年次書道 (MYP 5 Arts:Calligraphy) 【書道 I : 2 単位】

科目のねらい

MYP 芸術の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・ 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ
- ・ さまざまな時代、文化、文脈にわたって芸術を探究する
- ・ 芸術とその文脈間の関係性を理解する
- ・ 芸術の創作や実演に必要なスキルを培う
- ・ アイデアを創造的に表現する
- ・ 若い芸術家としての自分の成長を振り返る

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A : 調査	i. 探究テーマに関連して、選択した芸術分野のムーブメントやジャンルを調査する。
	ii. 選択したムーブメントまたはジャンルの芸術作品やパフォーマンスを批評する
B : 発展	i. 実践的にアイデアを探究し、芸術作品やパフォーマンスの完成に向けた取り組みに活かす
	ii. 最終的な芸術作品やパフォーマンスについて、芸術的意図を探究テーマに沿って明確に提示する
C : 創作・実演	i. 芸術作品を創作または実演する
D : 評価	i. 自分の芸術作品やパフォーマンスを評価する
	ii. 芸術家としての自分の成長を振り返る

※ねらい・目標の記述は、IBO 発行の「Arts guide」に基づいています。

関連概念 (数学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

受け手	境界	構成	表現
ジャンル	革新	解釈	物語
劇・戯曲	プレゼンテーション	役	構造

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
前期 (4月～9月)	1	1. 変化 2. 空間的・時間的位置づけ 3. リサーチ・自己管理スキル	書写と書道の違い 篆刻作品、自用印の制作 A表現(2) アイ	「呉昌石の模刻」【B】 呉昌石の作品を模刻することを通して、篆刻作品における工夫を発見すると共に、今まで使用してきた用具・用材との違いを理解する。また、基本的な運刀技術を評価する。 「自用印の作成」【C】 自分の名前を構成を工夫しながら作成し、その表現を評価する。	①知識・技能-B ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-B
	2	1. 美的感性 2. 個人的表現と文化的表現 3. 思考、情報リテラシー、コミュニケーションスキル	楷書美の多様性 北魏・唐時代の楷書の学習 筆法・結体の違いの理解 A表現(2) アウ	「スライド」【A】 一人一つ古典を担当し、その古典の持つ美について分析する。また、自身の作品制作において、分析からわかった特徴をどのように生かしているか論述する。 「書道プロセスジャーナル」【A】 自身の作品の成長について振り返り評価する。また、他者の古典と比べ、それぞれに異なる美が存在することを論述する。 「楷書の作品」【C】 古典の持つ特徴を理解し、それを表現できているかを評価する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-A
後期 (10月～3月)	3	1. ものの見方 2. 空間的および時間的な位置づけ 3. 思考、自己管理スキル	余白の意味 日本固有の美しさを持つ仮名書を学習し、余白の意味について考える。 A表現(3) アイウ	「散らし書きの作品」【C】 仮名特有の張りのある線質で、余白の美しさを取り入れた散らし書きの作品を制作する。 「書道プロセスジャーナル」【B・D】 自身の作品について評価する。また、自身の芸術家としての成長を振り返る。	①知識・技能-B ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-D
	4	1. アイデンティティ 2. アイデンティティと関係性 3. リサーチ、思考スキル	漢字仮名交じりの書 普段使用している言葉を使って写真の感動を伝える書作品の作製に取り組む。 A表現(1) アウ	「クリアファイルの作成」【C】 情報機器を使用し、効果的な空間構成を考えクリアファイルを作成する。紙面全体を俯瞰し構成出来ているか、写真の情景と言葉の表現が調和しているかを評価する。 「書道プロセスジャーナル」【A・D】 自身の作品について意図をもって表現できているかを評価する。参考にした作品について分析し、自身の作品にどのように取り入れたか論述する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-D